

令和2年5月1日

授業担当教員各位

浜松学院大学
遠隔授業システム
プロジェクトリーダー
学部長 大野木 龍太郎

遠隔授業の実施に関する Q&A について

遠隔授業を実施するにあたり、参考となる情報として別紙のとおりまとめましたので送付します。

なお、これらの情報については、令和2年5月1日時点のものであり、今後の状況により更新の可能性もあり得ますのでご承知おきください。

大学事務部長 神村明利
遠隔授業システム事務担当
今田・荻原・森山
<enkaku@hamagaku.ac.jp>

遠隔授業の実施に関する Q&A

(令和2年5月1日時点)

<目次>

- Q1. 遠隔授業では、どのように授業を行えばよいか。
- Q2. 学生から受講環境について相談を受けたがどうすればよいか。
- Q3. 遠隔授業の期間中は大学へ登校させてはいけないのか。
- Q4. Zoom のセキュリティについては対策されているか。
- Q5. 通信トラブル等で授業が途中で途切れてしまった場合はどうなるか。
- Q6. 遠隔授業では出席を確認する必要があるか。
- Q7. いつまで遠隔授業が続くのか。
- Q8. 定期試験は行うべきか。
- Q9. 遠隔授業の実施にあたり、シラバスの内容は変更して良いか。
- Q10. 課題や資料、動画の配信も時間割通りに実施しなければいけないか。
- Q11. 実技、実習系の科目も遠隔授業で実施しなければいけないか。
- Q12. 遠隔授業を実施する際には、大学への出勤が必要か。

Q1. 遠隔授業では、どのように授業を行えばよいか。

遠隔授業の形態としては、

- ① ポータルサイトなどを利用して課題や講義資料を配信し、期日までに指定した方法で課題（レポートなど）を提出させる。

※必要に応じ、提出された課題に対してフォロー（添削など）を行ってください。

- ② ポータルサイトなどを利用して課題や講義資料を配信し、期日までに Office365 Teams や One Drive 等を使って回答させる。

※必要に応じ、提出された回答に対してフォロー（添削など）を行ってください。

- ③ 音声解説付きの Power Point を配信する。必要に応じて、①，②の方法により学修達成度の評価を行う。

- ④ 教員が作成した授業動画を配信する。必要に応じて、①，②の方法により学修達成度の評価を行う。

- ⑤ 授業動画をライブ配信する。必要に応じて、①，②の方法により学修達成度の評価を行う。

- ⑥ Zoom などのオンライン会議システムを利用し、双方向通信で授業を行う。必要に応じて、①，②の方法により学修達成度の評価を行う。

があります。授業ごとに①～⑥の授業形態を組み合わせるなどして実施してください。

※各授業でどのような授業形態で実施するかは、ポータルサイトのお知らせ機能などを利用して事前に学生に対して連絡をお願いします。

Q2. 学生から受講環境について相談を受けたがどうすればよいか。

授業や課題の配信を受信できる機材（PC、スマホ 等）がない、自宅に Wifi 環境がない等の理由でインターネットを経由した授業を受けられない場合は、申請により大学の PC 教室や Wi fi 環境の利用を認めることがありますので、学務グループに申し出るようご指導ください。なお、PC 教室の利用許可については、ご自宅の環境等により判断させていただきます。

Q3. 遠隔授業の期間中は大学へ登校させてはいけないのか。

どうしても必要な場合（PC 教室での受講など）を除き、原則として学生の登校は認められていません。

Q4. Zoom のセキュリティについては対策されているか。

Zoom に限らず、インターネット上では様々なセキュリティリスクがあります。当初のトラブルに対して Zoom は様々なセキュリティ対策がとられ、セキュリティレベルが向上しており、国内の他大学においても広く導入が進んでいます。

※ID やパスワードの流出や、ミーティング参加用 URL の取り扱い等について十分にご注意いただくとともに、学生にもご指導ください。

Q5. 通信トラブル等で授業が途中で途切れてしまった場合はどうなるか。

授業を開始して、教員側の通信状況等にトラブル等が生じた場合は、ポータル等で学生に対応方法等について連絡をしてください。特に、次の授業での対応方法に関する連絡をしてください。学生側の機器あるいは通信状況等に不具合が発生した場合は、学生の通信状況が改善した後速やかに、授業担当教員へ連絡をし、今後の指示を受けるように学生には Q&A で連絡をします。学生は学生の状況をみて対応をご判断ください。なお、授業時間、休講、欠席、遅刻等については、2020 年度学生便覧の 100 ページに準じますので、確認をしてください。なお、Zoom 等を用いた同期型の授業の場合、危機のトラブル等による延長授業等は、学生の次の授業の受講に影響しますので、絶対にないようお願いをいたします。

Q6. 遠隔授業では出席を確認する必要があるか。

遠隔授業内での呼名による出席確認や課題の提出、チャット機能を利用した記名などの方法で出席を確認してください。欠席時の取扱いについては、通常の授業と同様に全体の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は評価対象外となります。

Q7. いつまで遠隔授業が続くのか。

現時点では、当面の間とされており、いつまでということは明言できません。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況や、政府の出す緊急事態宣言の状況、浜松市内や隣接する市町村及び隣接する県内における感染拡大状況等を踏まえた総合的な判断を学長が行った上で、対面授業に戻るようになります。

Q8. 定期試験は行うべきか。

対面授業が再開されない限りはレポート等の課題により成績評価が行われることを想定していますが、学年暦の上では定期試験週間をとっております。
最終的には授業担当者のご判断でお願いをいたします。

Q9. 遠隔授業の実施にあたり、シラバスの内容は変更して良いか。

授業形態が変わることによって、授業の実施内容が変更になることはあるかと思いますが、到達目標や学修内容については変更の無いようにしてください。
特に教職科目については、教職コアカリキュラムの内容を担保する必要があります。

Q10. 課題や資料、動画の配信も時間割通りに実施しなければいけないか。

リアルタイムでのライブ配信や、Zoom などを利用した双方向授業は時間割通りに実施することが重要です。また、延長授業も避けてください。授業形態の①、②、③、④で実施する場合は、授業開始時間前までに課題や資料を配信してください。

Q11. 実技、実習系の科目も遠隔授業で実施しなければいけないか。

実技、実習系の科目を遠隔授業で実施するには、各先生方の工夫が必要になると思いますが、動画や双方向授業で実践方法をご教授いただき、制作物や教授内容の実施動画、実践方法の手順書などの成果物を提出させるなどの方法をご検討いただき実施してください。

Q12. 遠隔授業を実施する際には、大学への出勤が必要か。

基本的には勤務中での授業実施になりますので、遠隔授業実施についても大学からの配信を想定しています。ただ、感染症拡大等の様々な状況など必要に応じて、大学外からの配信等についても授業そのものに影響がなければ認められることになります。
その場合は遠隔授業システム事務担当へ必ずご連絡ください。なお、大学外からの配信が難しい場合も想定して、大学内に遠隔授業を実施できる教室をご用意いたしますので、担当までご相談ください。